

日時： 令和4年12月 5日(月) 5校時

場所： English Room(学習室1)

1 単元名 New Horizon English Course 2 『学び方コーナー3 意見の述べ方』

2 単元の見本

既習事項を活用し、身近な話題について、賛成・反対、その理由を伝え合うことができる。【話すこと(やり取り)】

3 指導計画：総時間 1時間

4 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
本時においては、記録に残す評価は行わない。	身近な話題について意見交換をするために、既習事項を活用し、身近な話題について賛成・反対、その理由を伝え合うことができる。	身近な話題について意見交換をするために、既習事項を活用し、身近な話題について賛成・反対、その理由を伝え合おうとしている。

5 小中連携の見本

小学校外国語科では、各単元末の Enjoy Communication パートにおいて、「ひとこと感想を言おう(5年)」「聞き手は質問をしよう(6年)」「聞き手の反応を受けて話そう(6年)」と、対話を継続する力を段階的に育成するための課題が設定されている。小学校で対話がつながる楽しさを感じた生徒たちは、昨年度の学習を経てコミュニケーションにおける即興性を培ってきた。本単元の学習を通して、自分の思いや考えをより明確かつ効果的に話すための基礎を身につかせ、「対話」から「議論」へと生徒のコミュニケーションの幅を広げていきたい。

6 単元について

(1) 教材観

本単元では、好きな季節など身近な話題について自分の考えを発信しあう。相手の意見について、自分が賛成なのか反対なのかという意見と、その理由を表現することを通して、後のディスカッションやディベートの活動への足掛かりとなる単元と考える。また、賛成(同意)、反対の言い方を本単元で習得し、その理由を相手に伝えるために、直前の Unit6 で学んだ比較表現をはじめ、小学校段階から学習してきた様々な表現を駆使することで、生徒の英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方や、思考力・判断力・表現力を養うことができると考える。

(2) 生徒観

第2学年の生徒は各クラスとも共通して、ペア学習や自由発言、挙手、ホワイトボードによる回答の提示などが積極的にできており、様々な学習活動に意欲的に取り組む姿勢が見られる。特に本時の1組においては、間違いを恐れずに挑戦する雰囲気が醸成しやすく、コミュニケーション能力の高まりが表出しやすい。中には高度な英語力を有する生徒、柔軟な発想ができる生徒、協力的な生徒、ムードメーカーなどがおり、活気のある学級集団となっている。昨年度から受験している GTEC Core のスコアにおいては、A2~PreA1 までの大きな差があるが、それを感じさせない取り組みを見せている。

(3) 指導観

本時では、英語4技能のうち「話す」力に焦点をあて、初見の話題について自分の意見を持ち、即興で意見の交換を行わせる、活動を通して、これまでに学習した表現を統合的に活用させ、生徒の思いや考えを表出させることを目指したい。本時の学習過程においては、生徒に対する Scaffolding(足場掛け)に配慮し、評価場面となる言語活動に向け、必要となる資質・能力が徐々に身につくよう、一つ一つの活動を意図的に配置している。使用する英語については、間違いを恐れるよりも、まずは発信することを最優先とし、本事業の目的となる発信力の強化に向けた指導を行う。

本時では常にグループの体形で授業を展開する。本時に限らず、日々の授業では常にグループの体形で授業を進めている。グループの構成は、習熟度を中心にリーダー格となる生徒を各班で対角線上に2人配置し、英語に対する苦手意識のある生徒はくじ引きなどで、英語力がバランスよくなるよう振り分けている。グループの中で正面・左右・斜めの順に相手を変えてコミュニケーションを行わせることで、活動回数を増やしつつ、負荷を上げていく配置となっている。グループ分けの理由は、生徒にもやさしい表現で公表している。はじめはそれに抵抗を示す生徒も一部いたがすぐに慣れ、現在では違和感なく活動が行われている様子が伺える。

終末段階では、本事業の重点の一つである CAN-DO リストによる自己評価を通して、生徒の主体的な学習態度を育むとともに、教師の今後の指導改善へとつなげていく。

7 本事業の目的との関連

(1) 豊かな言語活動により、英語による発信力を強化する。

(2) 「話す」力を中心に英語4技能の総合的な育成を図り、CAN-DO リストの効果的な運用を図る。

8 学習過程

※雰囲気づくりとして、授業開始前からBGMを流し、グループで帯活動の「こうかん絵日記」に取り組ませる。

段階	学習活動・内容	形態	○指導上の留意事項		評価 (手立て)
			T1	T2	ALT
導入 15分	1 Greetings	一斉 (1)	○主体的な学習の雰囲気を醸成するために、生徒に号令をかけさせる。	・T1の指示で生徒とあいさつを交わす。	・T1の指示で生徒とあいさつを交わす。
	2 Warm-up Activities (1) Guess Who? クイズ 桜木花道 (スラムダンク) ・話題の人物について、既習事項を用いた即興的な対話に取り組む。	ペア (3)	・机間指導で適宜支援を行う。	・PCを操作し、クイズに関わる資料等を提示する。	・机間指導で適宜支援を行う。
	(2) Small Talk ・クイズに登場した人物について、やり取りを深める。	一斉 (1)	○教科書の内容へ繋げるために、サッカー選手の話題に切り替える。	・答えの人物について、T1とALTに質問をする。	・T1、T2と対話しながら、本時の言語材料に触れさせる。
	3 Reading Practice 「ごちゃ混ぜ Reading」 (p.99 モデル対話) ・レベルが上がるごとに、負荷が高い課題にチャレンジする。	ペア (10)	・活動の指示を行う。 ・中央2グループを担当し、適宜支援する。 ○本時の目標を共有するために、教室内の掲示を示して、キーセンテンスを確認する。	・T1の指示で、ALTと活動のモデルを実演する。 ・窓側2グループを担当し、適宜支援する。	・T1の指示で、T2と活動のモデルを実演する。 ・廊下側2グループを担当し、適宜支援する。
身近な話題について、賛成・反対、その理由を伝え合おう。					
展開 30分	4 Sentence Pattern Practice ・次の活動に向け、賛成・反対を述べる表現に焦点を当て、教師とやり取りの練習を行う。	一斉 (3)	・活動の指示を行う。 ・I think…で意見を述べ、生徒に賛否を問う。	・T1の指示で、ALTと活動のモデルを実演する。 ・I think…で意見を述べ、生徒に賛否を問う。	・T1の指示で、T2と活動のモデルを実演する。 ・I think…で意見を述べ、生徒に賛否を問う。
	5 Communication Activity I 「SUGOROKU トーク」 ・すごろくで止まったマスの内容について話す中で、基本的な表現や、理由の言い方、例示の仕方に触れる。	グループ (7)	・活動の指示を行う。 ○生徒の活動状況を細かく把握するために、担当グループを決めて支援を行う。 ・中央2グループを担当し、適宜支援する。	・窓側2グループを担当し、適宜支援する。	・廊下側2グループを担当し、適宜支援する。
	6 Communication Activity II (1) Battle Talk “Which do you like better, winter or summer?” ・ホワイトボードに、各自で割り当てられた季節の良い点を記入する。 ・相手の発言に対し、賛成・反対の立場を述べた後、その理由としてホワイトボードに記入した意見を述べる。	一斉 (10)	・活動の指示を行う。 ・「冬」側のグループの意見表出を促す。	・T1の指示で、各グループに「冬」または「夏」を割り当てる。 ・「夏」側のグループの意見表出を促す。	・各グループの割り当てを聞き、ボードにまとめる。 ○各グループから出た意見を共有するために、その場でPCに打ち込み、モニターで表示する。 ○既習事項の定着を図るために、生徒のエラーに対し、日本人教師との対話を通して、適宜フィードバックを与える。
	(2) Free Talk “I think ○○ is …er than △△. What do you think?” ・本時の学習成果を発揮し、自分達でトピックを決めて対話を行う。	ペア (10)	・活動の指示を行う。 ・中央2グループを担当し、適宜支援する。	・PCを操作し、事前に生徒から募ったテーマ一覧を提示する。 ・窓側2グループを担当し、適宜支援する。	・廊下側2グループを担当し、適宜支援する。
既習事項を活用し、身近な話題について賛成・反対、その理由を伝え合うことができる。(観察)					
終末 5分	7 CAN-DO チェック ・Googleフォームで回答する。	個人 (4)	・Can-do チェックのやり方を指示する。 ○次時への目標をもたせるために、本時の取り組みを総括しコメントする。	・PCを操作し、Googleフォームにアクセスするため のQRコードをモニターに表示する。	○次時以降への意欲向上のために、机間を回り、生徒に対し本時の取り組みを称賛する。
	8 Greetings	一斉 (1)			